

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171300090
法人名	有限会社 ほたるの里
事業所名	三日月紀水苑
所在地	佐賀県小城市三日月町織島4773番地1 (電話) 0952-73-7870

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年11月22日	評価確定日	平成 19年12月18日

## 【情報提供票より】(平成 19年10月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤	3 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 15人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		800 円		

### (4) 利用者の概要(11月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂田整形外科
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

[ほたるの里]の名称どおり自然の豊かな環境の中に立地している。苑庭の広い芝生が目によし、花の好きな利用者の方が育てられた花々が玄関を飾っている。近くには虫が生息する川があり、ちょっと散歩に行き観賞できる。建物は平屋でいつでも庭に出られるようになっているため開放感がある。毎日の日課に、この苑庭での日光浴が喜ばれているのもなすけ。建物の中は車椅子で生活できる十分なスペースが確保され、木のぬくもりが人と人との優しさを包み込むようなホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では質の高いサービスを提供されており、職員一同改善点を話し合いなお一層の努力をされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点を踏まえ、職員一同で話し合う機会を作り自己評価に取り組みされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回の運営推進会議を活用して、苑の運営目標や取り組み等を報告し、参加者からの意見や提案を活発に取り入れられている。今後、さらに地域の様々な方々の協力・支援を得られるように声かけをされ、避難訓練等の協力を呼びかける等の取り組みを期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情箱を設置し、苦情担当を設けている。又、家族の面会時には気軽に意見を言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。利用者を取り囲む「コミュニケーションの輪」については、遠方の家族にも広げていくよう期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>空き缶拾いに毎月参加するなど、地域住民の一員として行事へ参加をしている。又、地域の方々より野菜を頂いたりするなど交流がある。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今を楽しく」「家族に安心を」「地域と共に手をつなぎ輪を持って共に喜びを分かち合おう」を新しい理念として掲げ、取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	平成19年4月から理念を新たに掲げる際に、ミーティングを行なった。又、常にホールに理念を掲示し、会議などで復唱して職員一同日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通して、市役所・区長・老人会長・民生委員等の方々と交流を図っている。又、近所の神社での祭りに参加したり、空き缶拾いに参加する等、地域の活動へ積極的に参加をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、前回の課題を取り入れながら職員で話し合い作成している。また、改善点は職員に必ず伝えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月一回開催している。会議では、当苑の運営目標や取り組みなどを報告し、参加者からの意見提案なども積極的に取り入れていて、会議後は議事録を玄関に開示しているが、メンバーは固定化されていた。	○	さらに地域の様々な分野の方々の協力・支援を得られるように声かけをし、運営推進会議での意見を積極的に活用し、サービス向上に活かしていかなれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所・包括・福祉課等には利用者の代行手続きや生活支援の相談をしながらサービスの質の向上に共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	遠方の家族の方も利用者の生活状況がわかるように、毎月便りを発送している。又、面会来苑時には利用者の生活状況を報告している。体調の急な変化時には必ず家族に連絡している。	○	本人・家族の了承が得られれば、利用者の親戚や知人にも苑便りを郵送し、コミュニケーションの輪が出来るように考えておられ、今後の取り組みに期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、苦情担当者を設けている。又、面会等で気軽に意見などを言って頂けるような、雰囲気作りを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出勤・退勤の挨拶は全職員が利用者にするようにしており、顔馴染みの関係を作るよう心がけている。新人職員は、ベテラン職員に付き指導を受け、利用者との信頼関係を築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加や、経験年数に応じた達成度のチェック表等を使用し、段階に応じて育成するようにしている。又、他施設との交流をするなどスタッフの育成には力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の施設への交流研修会・合同勉強会へ参加し、ネットワーク作りや、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族の方と面談し、1週間程度の体験入居も出来る期間を設けている。利用者の生活歴を聞きながら、家族やケアマネジャーと相談し本人が納得して入居できるように取り組んでいる。また、入居後は本人に応じて家族の面会を多くしてもらおうなど、家族と相談し協力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の残存能力を活かし、出来る事などを見つけ、農作物の収穫など共に喜んでいる。また、スタッフも利用者にも相談するなど助言をってもらう事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、表情、また、本人や家族からの生活歴の情報等から、本人の好き嫌いなどを把握し、会議等で本人の意向を検討し、スタッフ全員で共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	評価とモニタリングを行ない、本人・家族の意向を聞き、課題を整理して担当者会議で意見を出し合い、介護計画書を作成している。作成した介護計画書は、本人・家族に確認してもらい同意が得られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は6ヶ月ごとに見直しが行われているが、利用者の状況に変化があれば期間を待たずに、その都度カンファレンスを開き、家族の方と話し合いをした後に、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や理美容等で家族が対応できない時にはホームで対応している。また、自宅で介護が困難な時に、馴染みの環境と職員によるショートステイが出来るように体制を備えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望医療機関があれば、継続して受診も出来るようにしている。また、緊急時の協力病院が確保され、毎月かかりつけ医の診察時に、利用者の状況報告をし医療との連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の契約書に利用者が重度化した場合や、終末期の方針を説明し同意を得ている。ターミナルケアの対応マニュアルを作成し、医療機関の協力を得ると共に、職員への周知を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方には、「常に尊敬の念を持って接するように」と日ごろから指導徹底され、個人情報に関しては、苑外で他言しないように細心の注意を払うようにしている。しかし、排泄誘導の際の声かけが、本人以外にも聞えるような対応が見られたり、排泄時のカーテンの使用が徹底されていなかった。	○	排泄誘導時のさりげない声掛けには、さらに本人の羞恥心等に配慮されると共に、トイレのカーテンを閉めずに入る方もいる為、職員は常に気を配り、本人のプライバシー確保に配慮されることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上下肢訓練(ラジオ体操など)やレクリエーションの参加等は、無理に参加を促さず、自己決定をしていただくようにしている。食事や入浴も十分な時間を設け、本人のペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の集まる場所に、当日のメニューを掲示し、献立の話などを行っている。利用者の状態に合わせた調理方法をしたり、食器を選んでいる。又、利用者は自分出来る、配膳や食器洗い、テーブル拭き等、職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番などは利用者の希望で行い、午後の時間帯で本人の希望する時間で対応されている。午前や夕方の時間帯の対応も可能で、季節の入浴剤を使い四季の変化を楽しめるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	中庭に出て日光浴やレクリエーションをしている。日当たりの良い静かな中庭は利用者の気晴らしの場になっている。花を育てている利用者は玄関を花で飾っている。また、生活歴から話題を見つけることにより、会話が弾み利用者間の楽しみを見出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、近隣の散歩や買い物、医療機関への受診が出来るようにしている。普段から苑庭の活用を心がけ、戸外で過ごす時間を確保している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は基本的に行われておらず、本人や家族がいつでも出入りできるように玄関は開放されている。職員は必ず目の届く位置にいることを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防機関の立会いの下、防災訓練を夜間想定で年二回実施しているが、地域の協力体制確保に向けての取り組みは、民生委員等からの声かけにとどまっていた。	○	災害時の対策として、地域の住民との連携は欠かせません。運営推進会議等を活用して、避難訓練等に地元消防団や地域の方が参加していただくように声掛することで、地域の協力体制が築かれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の栄養バランスは参考書等を活用し確認している。また、毎食の食事摂取量のチェックと、定時の水分補給を確実にこなしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の集まるホールは、室温・湿度に気をつけており加湿器を備えている。又、エアコンは職員が管理して利用者に合わせて調節している。壁絵等も季節に合わせて張り替えている。室内への光の取り込みなどブラインドで調節し細かい配慮を心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、馴染みの物を使っていただき、写真を飾るなどして安心して過ごされるよう配慮されている。又、自分の居室がわかりやすく迷わないように、目印をつけたり、果物の名前を部屋につけるなど工夫されている。		